

議 事 録

[illegible]

1 委嘱状交付

2 あいさつ

3 自己紹介

4 委員長・副委員長の選出

5 議題

（１）岩倉市における自殺者の状況について

事務局から説明。

委員長：資料３の地域自殺実態プロファイルは 2022 年までの数値ということか？資料 2 は 2023 年までが反映されているようだが違いは何か？

事務局：数値としては 2022 年まで載っている 2023 年版のプロファイルである。

資料 2 と 3 で時点が違うのは出典が違う事が理由である。資料 2 は厚生労働省が自殺の統計としてインターネット上で公表している資料を参考にしており、資料 3 はいのち支える自殺対策センターから提供される地域自殺実態プロファイルの抜粋であるため、2023 年中の自殺者数は記載されていない。

委員長：地域自殺実態プロファイルの地域の主な自殺者の特徴は、1 人増えると順位が変わるという報告もあった。順位の変動により重点パッケージが無職者、失業者から勤務・経営と変わった。岩倉市の人口規模だと重点パッケージも変わりやすいということが分かると思う。

江南保健所管内の他市町村の状況を教えていただきたい。

委員：江南保健所管内の人口規模だと自殺者数が 1 人変わると自殺死亡率が大きく変動してしまうので難しいが、他の市町だとやや高齢者の割合が多い。岩倉市は昨年プロファイルの方に出ている男性の有職者の方の年齢が若い人が入っているのは他の市町と比べて特徴のあるという印象を持てる。このあたりが第 2 期の計画でフォローできてくるといいと思った。

委員：高齢者の方に対する対策を重点的に考えていくことが大切だと思った。

委員長：クリニックでは高齢者の相談だとどのような相談が多いのか。

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

委員：自身の体調のことや大切な方をなくされた方の相談が多い。相談内容に応じて医療機関につなげたりしている。

委員：重点パッケージについては岩倉市だけだと母数が小さすぎてプロファイルに特化した施策をうつと対策が偏ってしまう。基本は母数が大きい全国区のデータを参考に考えてもいいのではないかな。

委員長：重点パッケージに特化しすぎるのではなく、全方位で取り組むのがいいのではないかなという意見だが、事務局ではどう考えているかな？

事務局：元々、重点パッケージも5つのうちから4つ選ばれるので、ほとんど全部重点パッケージという部分もある。岩倉市としても重点パッケージにとらわれすぎてもいけないので、並行して全国、近隣市町の状況を見ながら自殺対策に取り組んでいきたい。

委員：自殺対策計画では、多岐にわたる対策をうっていると思う。しかし、その施策が必要な人に伝わっていない部分があるのではないかなと思う。困っている方の目にとまるようにしてもらいたい。また、支援を拒否する方もいると思うのでそういう方も自分から支援を求めることができるような環境になると良いと思う。

委員：自殺対策の色々な施策があり、ある程度周知もできていると思うが、それぞれの支援を利用した方が自殺を思いとどまった等の結果までは分からない。そういうものが分かると良いと思う。

委員長：困っている方が支援を求める最初の一步が難しいと思うので、気軽に行ける相談が良い。

委員：コロナ禍以降、定職に就くのが難しいのか貸付等の相談が多い。相談に来た方の全てに貸付ができるわけではないので、相談に来た方のその後が分からない部分はある。日頃の業務から全体的に生活状況は厳しいのではないかなと感じる。

委員：自殺者については独居の方が多いのかと思っていたが、自殺対策計画に関わると同居の方がいても自殺する方が多いことが分かった。独居・同居を問わず寂しさを感じさせないようなケアが大切だと感じた。民生委員として家庭を訪問

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

してお話しする時に中々話が續かない方もいるので、会話に関する勉強等をして心に寄り添えるような対応をしたい。

委員：自身の親が介護状態にあるが、プライドもあってか認知症等の受け入れが難しいようである。支援に関わる方に失礼な態度を取って困ってしまうこともある。同居の方の自殺の背景には介護の必要な方の家族が本人を疎外してしまうことがあるかもしれないので気を付けなければいけない。

委員：民生委員をやっている時には地域に心配な方もいた。今は地域でサロンを運営しているが、地域で家から出ない方等をサロンにお誘いしている。

委員：市の施策で自殺対策が必要な方全てに手が届くかというところではないと思う。以前、広報配達員をやっていた時に支援が必要と思われる方に広報をお勧めしたが絶対にいらないと言われた。その方は結果的に遠くの親戚が支援してくれたようだが、困っている方の個々に合わせた支援ができるのは地域ではないかと思った。

委員長：専門職の支援も大切だが、地域で近隣の方に関心を持つことも大切。

委員：資料を見て自殺の実態が分かれると衝撃を受けた。義務教育の子どもたちも年度当初で環境が変わったタイミングや長期休業期間明け、年齢を重ねて人間関係に悩むことがある。自殺に関すること教育現場で非常に大きな問題になっているので、元気そうに見える子も悩みがあるのではないかという視点も大切だし、苦しい時に苦しいと言える指導が大切。子どもの環境や特性も多様化しているので関係機関と連携して長期的なサポートがますます大切になると思う。

委員長：岩倉市における自殺者の状況についてご意見をいただいた。地域自殺実態プロフィールから見える年代別の自殺死亡率で、全国と比較して低い数字はそのまま維持しつつ、高いところをどのように対策していくのが第2期の計画推進の中で大事になってくると思う。

（2）令和5年度計画推進進捗報告について（第1期計画）

事務局から説明。

委員：資料4でひきこもり等を対象としたサロンを委託に切り替えたとのことだが、サロンの実施状況や委託先の経営について監査は入っているか。

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

事務局：今年度から委託を開始したところなので委託内容について監査は実施していないが、年度末には実施報告書の提出を求める。委託先の経営については障害福祉サービス事業所として監査を受けている。

委員：資料５でレジリエンス研修を周知したということについて、商工会も会員向けに周知させてもらったが、送付した研修案内をちゃんと読んでもらえているかわからない。商工会としてもこういった案内をどう届けていくか考えている。

委員長：福祉の現場でも利用者から過剰な要求を受けることがあると聞く。カスハラから守るレジリエンス研修ということだがどんな内容で実施したか。

事務局：研修内容に関する資料を持ち合わせていないので報告できない。

※会議後追記：レジリエンス研修の内容はレジリエンスへの基礎知識、レジリエンス強化への道（マイナス感情への対処、レジリエンス思考）等を学習した。

委員：新たに立ち上がったサロンは自分が関わっている。市や社協が色々な形で支援してくれたので助かった。

委員長：第１期計画最終年度の進捗を報告してもらった。今年度からは新たな第２期計画がスタートしていくので、事務局には自殺者数０を目指して取り組んでもらうとともにこの委員会で進捗確認と提言を行っていきたい。

３ その他

事務局：これにて、本日の委員会を終了とする。